

115	出版祝いのお礼 改まった文例
<p> 拝復 本日貴簡拝見いたし、感激しております。拙著にかくも過分なるおほめをたまわり、恐縮至極に存じます。 </p> <p> 長年書き留めておきました旅先のエピソードをもとに、週末を利用して随想にまとめたものにすぎず、とても「日本文化論序説とも思える重厚な作品」などでは決してございません。しかし、たとえご祝儀のお言葉とは申せ、そのような高批をたまわることは、身に余る光栄に存じます。 </p> <p> 出版という宿願が果たされただけでも幸福でありますのに、その上尊台のような知識人からおほめをいただくとなれば、文字通り天にも昇るような気持ちで欣喜雀躍しております。 </p> <p> 調子に乗り次作の構想も固めているところではございますので、今後も貴重なご高見をお聞かせくださるよう、謹んでお願い申し上げます。 </p> <p> 略儀ながら寸書にて、お礼まで申し述べます。 </p> <p style="text-align: right;">頓首</p>	